

小松市重点目標

未来の創り手となるために必要な資質・能力を確実に育成する学校

授業の質的改革 → 資質・能力を確実に身に付ける児童生徒の育成

- ①児童生徒が 主体的・対話的に学習したくなる授業
- ②児童生徒が 自己の思考を深め、自己表現したくなる授業（思考力・記述力・発表力）
- ③児童生徒が 自己の学習をふりかえり、学びを実感できる授業

組織的な体制・環境づくり → 児童生徒に資質・能力を身に付けさせる教員の育成

- ④教職員が 目標や課題を共有し自己の役割に責任を持ち、課題の解決に取り組む
- ⑤教職員が 授業力を高める。切磋琢磨し学校研究に取り組む
- ⑥教職員が 児童生徒が主体的に活動できるように環境を整える

令和５年度 学校評価重点計画

小松市立矢田野小学校

学校長 園下 恵子

目指す児童像

「やさしく」「かしこく」 よりよく生きる子

- ・ 思いやりのある子 自分のよさを認め、互いを認め合い、思いやれる子
- ・ 自ら進んで学ぶ子 自ら考え、判断し、行動できる子
- ・ あきらめずにがんばる子 課題解決に向け、やる気・根気でチャレンジできる子

（１）学校の現状と課題

「よりよい自分、よりよい学級、よりよい学校」にしていくためには、まずは自分のよさを認め、自らを高めようという意識を持つことが求められる。そこから、相手のことを思いやり、互いを認め合い、高め合う関係性が生まれ、よりよく生きようという行動につながる。そして、それらは、「楽しい」から生まれると考える。

そこで、今年度の重点を「楽しい学校づくり」とし、「自分のよさを認められる子・認め合い信頼し合える集団づくり」に取り組む。

（２）具体的な方策と検証

- 1 自分のよさを認め、互いを認め合い、高め合う集団づくり
 - ・ 生徒指導の３機能を生かした学級・授業づくり（※）
 - ・ 児童主体の場や活動の設定（※） 特別活動の充実
- 2 教師の指導力の向上
 - ・ 学校研究の共通実践による授業力向上と授業改善 （※）
 - ・ 基礎基本の定着に向けた共通実践と指導力の向上 （※）
 - ・ ICTを活用した授業づくり （※）
- 3 主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善と場の設定
 - ・ 自ら考えを持ち、聴き合う態度の育成（※）
 - ・ 互いのよさや考えが尊重される場の設定と自治力の育成（※） クラス会議

※印については学校評価にて検証